

製品名: BIN1 (14G10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07564**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	BIN1
別名	AMPH2; Amphiphysin 2; Amphiphysin II; AMPHL; Bin1; Bridging integrator 1; SH3P9;
遺伝子 ID	274.0
SwissProt ID	O00499
免疫原	ヒト BIN1 の組み換えタンパク質

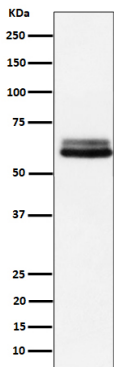
背景

シナプス小胞エンドサイトーシスの調節に関与している可能性がある。腫瘍抑制因子として作用し、悪性細胞の形質転換を阻害する可能性がある。細胞膜の湾曲、膜の形成、および膜リモデリングの制御において重要な役割を果たしている。筋細胞において、脱分極-収縮連関において機能する細胞膜の管状陥入部である T 管の形成に必要である (PubMed:24755653)。エンドサイトーシスの負の調節因子である (類似性による)。また、細胞内小胞の選別の調節、BACE1 輸送の調整、およびアミロイド β 産生の制御にも関与している (PubMed:27179792)。神経回路において、エンドサイトーシスの調節は PHF-タウ凝集体の内在化に影響を及ぼす可能性がある (類似性による)。MYC 活性の調節および細胞増殖の制御に関与している可能性がある (PubMed:8782822)。アクチン束形成活性を有し、in vitro でアクチンフィラメントの脱重合を安定化します (PubMed:28893863)。

研究分野

細胞生物学

画像データ



A431 細胞溶解物中の BIN1 発現のウェスタン プロット解析。